

「三番瀬の生きものから縄文時代の干潟の歴史を知る」 in 飛ノ台 Part2
～生きもの観察会から飛ノ台周辺環境の歴史を散策する～

【支援金確定額：327,304円 支援率：50%】

記入日：平成25年（2013年）3月29日

■どのような活動をしている団体ですか？

- 1・三番瀬の干潟、浅瀬環境のフィールドで四季変化する動物・植物の観察会、調査を年間計画をたて実施しています。
- 2・博物館の学芸員及び在野の専門家の指導も受けて活動しています。
- 3・海（里海）・川（里川）・緑地山林（里山）の繋がりを観察会やシンポジウムを通して学ぶ活動をしています。
- 4・大人・子どもともに自然を大切に、楽しむ活動をめざしています。



飛ノ台史跡博物館の展示の様子

■支援金をどのように活用されましたか？

24年度は、三番瀬の生きものたちの生態を飛ノ台史跡公園博物館の展示ホールに於いて、2月16日～3月31日まで展示の実施をしました。更に、講演会、ワークショップを実施しました。

講演会は、「貝塚より出土する動物からわかること」・「現在の渡り鳥の干潟環境」の話から人々の暮らし方、生きものたちの繋がりを学びました。三番瀬に集まる渡り鳥たちの生態写真を通して参加者に知ってもらえました。飛ノ台史跡公園博物館展示の縄文時代からの人々との繋がり、地形の変化を学ぶ空間にもなりました。

ワークショップは、おかあさん、おとうさん、おばあちゃんと「かぶれる渡り鳥たちの折り紙帽子づくり」・「デコイの鳥たちの色塗り」を楽しみました。



ワークショップ
「デコイの鳥たちの色塗り」

■事業を実施して、どのような成果がありましたか？

三番瀬に集まる渡り鳥の生態の写真を見て、講演を聞いて、ワークショップで作る作業から、生きものとの暮らしと私たちとの関わり、自然の大きさを体感できたのではないのでしょうか。

アンケートからも、三番瀬の大切さを理解できた、三番瀬の観察会に参加したい！ワークショップはたのしかったなどの感想が寄せられました。

講演を聞かれて、写真展を見て、質問も沢山されて、評価されたのではないのでしょうか。

■今後の活動の抱負について

身近にある自然環境を観察して、書いたり、描いたり、写したりなど表現する活動に繋がりたい。

自然環境を大切にすることを学べるシンポジウムなども計画したい。

それぞれ活動している団体や個人とネットワークづくりを広げたい。

私たちの住む地球をみんなで大切にしたい。

未来の子どもたちに繋がる活動や、周辺の自然や博物館、施設を大切に活用する活動を行いたい。

■ 問い合わせ先：共同代表 佐藤 聡子（さとう ふさこ）、田澤 浩一（たざわ こういち）
TEL：090-1769-9494 E-mail：hosikuzu@eos.ocn.ne.jp